建設業

回答企業57企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 大幅悪化で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比31.5ポイント低下の▲33.3と大幅悪化、前回調査予想値(28.1)を下回る結果となった。項目別では、売上･受注が36.9ポイント低下の▲43.9、売上数量も35.1ポイント低下の▲43.9、利益でも31.6ポイント減少の▲42.1となった。すべての項目で大幅悪化となった。

冬季間は閑散期であるものの、受注工事に於いては業者間の格差見られる。

分野別の状況

～総合的業況は大幅悪化で推移～

業者間の格差あるも、少雪の影響から工事が順調に進み、工期の短縮や経費節減につながった様子。但し、例年発生する雪害による工事は減少した。

冬季間、除雪事業を営む事業者に於いては暖冬、少雪の影響大きく、売上高は低迷した。

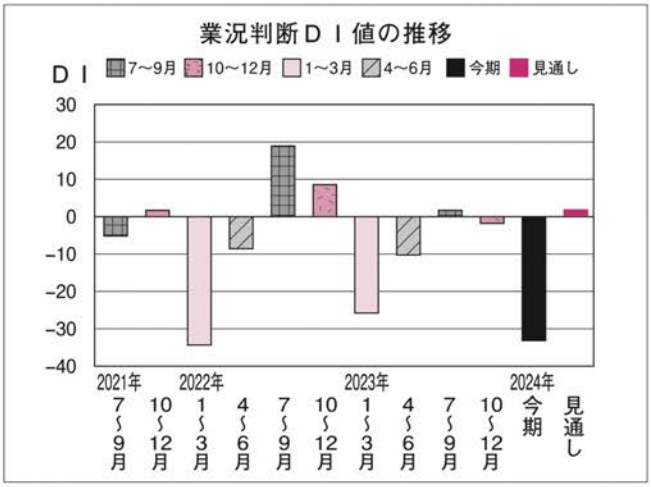
電気工事業者に於いては、4月から資材価格の値上がり通知が各メーカーあり、影響を懸念している。

来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比35.1ポイント上昇の1.8と大幅改善の見通しである。項目別では、売上･受注で45.7ポイント上昇の1.8、売上数量も45.7ポイント上昇の1.8、利益でも36.8ポイントの上昇の▲5.3となった。

来期は業況活発化することが予想され改善の見通しではあるが、業界全般に人材不足であり、各企業とも対応に苦慮している。



製造業

回答企業33企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 やや悪化で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比3.0ポイント低下の▲18.2とやや悪化し、前回調査予想値(▲24.2)は上回る結果となった。項目別では、売上･受注で18.2ポイント低下の▲18.2、売上数量も15.2ポイント低下の▲18.2、利益では0.0ポイント横ばいの▲15.2と2項目で悪化した。

今期は例年閑散期となるため全体的に低調に推移。原材料や資材、燃料費等の経費増加は継続しており収益の確保が課題となっている。

分野別の状況

～総合的業況 やや悪化で推移～

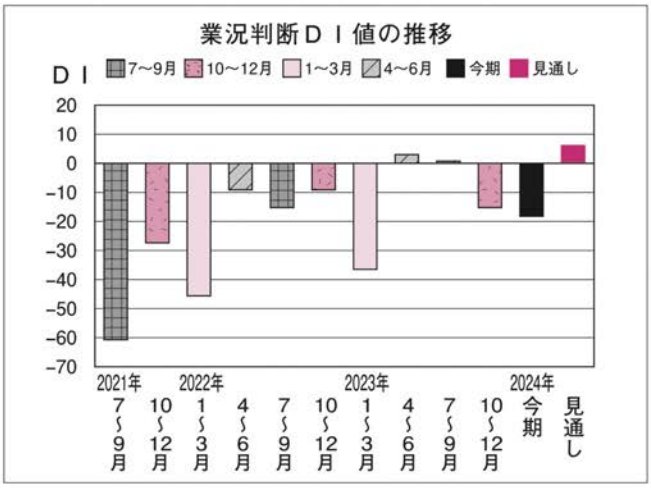
衣料縫製業では定年退職等の人員不足から生産量が減少した企業があり、人材の確保が急務となっている。

アルミ建材製造業では受注好調に推移し売上は確保するも原材料の高騰から利益率は低下している。

印刷業に於いては、取引先のデジタル化により請求書等の印刷物が減少している。また新商品開発による新ビジネスに取組み売上を伸ばしている企業もある。

来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比24.3ポイント上昇の6.1と改善の見通しである。項目別では、売上･受注では36.4ポイント上昇の18.2、売上数量も33.4ポイント上昇の15.2、利益でも24.3ポイント上昇の9.1と、項目別でも大幅改善の見通しとなった。

食品製造業を中心に改善の見通しとなるが、原材料がりんごの製品は価格や数量の確保に問題を抱えている。